



財団創立 60 周年記念式典・第 44 回全日本仏教徒会議福島大会 報告

公益財団法人全日本仏教会(JBF/以下本会)は 10 月 13 日(金)～14 日(土)、福島県郡山市内において、「財団創立 60 周年記念式典」をホテルハマツ、「第 44 回全日本仏教徒会議福島大会」をビッグパレットふくしまにて開催しました。

両日併せ約 3,000 人の皆様に出席を頂戴し、加盟団体、賛助会員、政界、関係団体、福島県下寺院や檀信徒とともに、仏教がもつ「共に生きる」精神を確認し、過去の災害を忘れることなく、次世代へとつなげていくため、犠牲になられた多くの尊いいのちの追悼と被災地復興を祈りました。

1957(昭和 32)年 8 月 23 日に財団法人に移行後、今年で 60 周年を迎える本会は、「仏教文化の宣揚」と「世界平和の進展に寄与」することを目的に、国内外救援活動、大蔵経テキストデータベース支援・仏教に関する実態把握調査・海外の仏教者との交流を推進してきました。また、伝統仏教界の連合体として、加盟団体との情報共有をはかり、仏教の社会への発信に努めております。

東日本大震災 7 回忌、阪神・淡路大震災 23 回忌、平成 28 年熊本地震 1 周忌が重なる本年に、仏教を伝えることを目的に掲げている本会が財団創立 60 周年を迎えることは、仏教がもつ「共に生きる」精神を具現化する大変重要な節目であると認識し、福島県郡山市を会場に、「ご縁をかたちに、絆を行動に一私からはじまる」とテーマを設け、平成 25 年 7 月 2 日の準備委員会から様々な協議を経て開催に至りました。

開催概要

●財団創立 60 周年記念式典

会 場 ホテルハマツ(福島県郡山市虎丸町 3 番 18 号)

開催日 2017(平成 29)年 10 月 13 日(金)

内 容 ○財団創立 60 周年記念式典

○財団創立 60 周年記念 被災物故者追悼・

関係物故者追悼・被災地復興祈念法要

○記念講演:玄侑宗久師

(福島県福聚寺住職・芥川賞作家)

○懇親会

参加者 約 500 人



●第 44 回全日本仏教徒会議福島大会

会 場 ビッグパレットふくしま

(福島県郡山市南 2 丁目 52 番)

開催日 2017(平成 29)年 10 月 14 日(土)

内 容 ○復興祈念法要

○お話と歌 加藤登紀子氏

○式典(閉会行事)

参加者 約 2,500 人



ロゴ / テーマ 「ご縁をかたちに、絆を行動に一私からはじまるー」



地域や世界を通じて、様々な人々との縁や絆を結びながら、結んだ私がどのようなことができるかを悩みながら行動していく、そのような想いをこめて、この度のテーマを決定いたしました。

ロゴは、「60」をモチーフに、仏旗の色を用いながら、大きな輪をあしらった滑らかなデザインで「世界・地域」を表現しております。動きのある赤い曲線は「行動」を表し、60 周年記念事業のテーマに沿ったロゴになっております。

ご縁をかたちに、絆を行動に
ー 私からはじまるー

財団創立 60 周年記念式典(13 日)



記念式典はホテルハマツを会場に、約 500 名の方にご出席いただきました。

全国からお越しになった僧侶の中には、阪神・淡路大震災や平成 28 年熊本地震など、大災害を経験された方もいます。



加盟団体の代表者のほか、郡山市長の品川萬里様、部落解放同盟の組坂繁之様をはじめ、ご来賓の皆様にも登壇いただきました。大変ご多忙の中、お越しくださいましたこと、厚く御礼を申しあげます。

このように様々な方にご出席いただけるのは、宗派の枠を超えた先人たちの活躍のおかげであり、60 周年という節目にあたって、歴史を垣間見る場面でした。

開会に先立ち、ご来賓や加盟団体代表者が登壇し、中西玄禮副会長の辞により開会しました。



中西副会長は、出席者への御礼とともに、開会宣言をしました。

続いて、雅楽の音色のもと、小峰一允会長が入場し、「財団創立 60 周年記念被災物故者追悼・関係物故者追悼・被災地復興祈念法要」を厳修しました。



三帰依文を出席の皆様とともに唱え、法要を勤めました。小峰会長を導師に、真言宗智山派の職衆の皆様にご尽力いただきました。

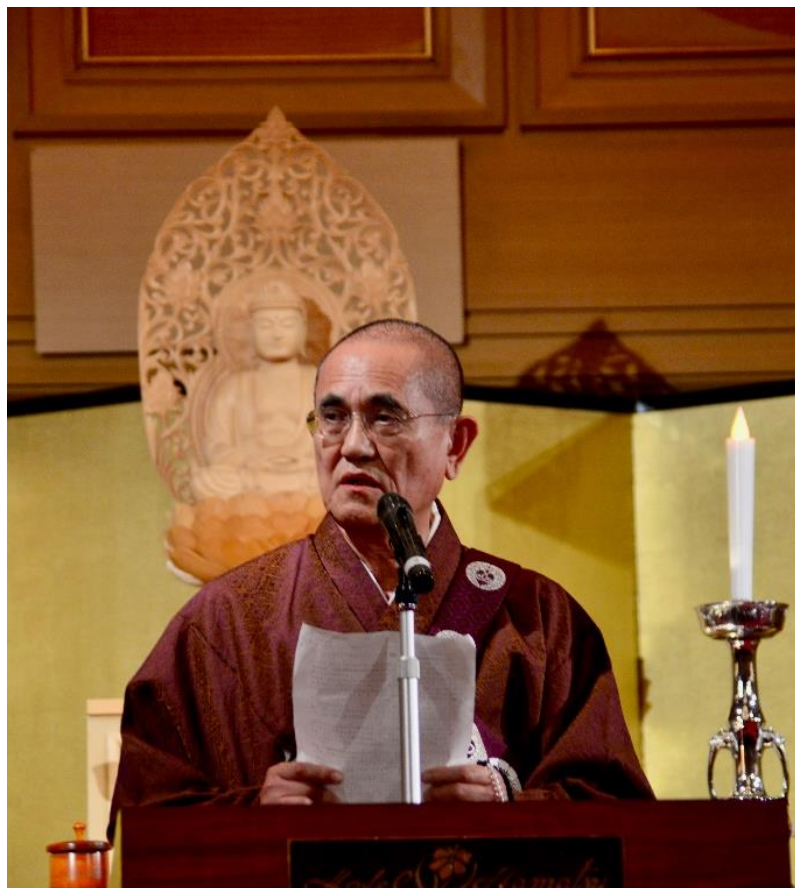
法要では、様々な災害で犠牲になられた方々とともに、伝統仏教界にご尽力された方々を追悼し、出席者とともに被災地の復興を祈念いたしました。

法要中、小峰会長が表白を奉読しました。



表白の中で、改めて東日本大震災での犠牲者や原子力発電所事故について「悲痛慟哭の極み」と述べ、「犠牲者の冥福と災害の早期復興」を祈念しました。表白はプログラムに記載し、出席者の皆様にご覧いただきました。

法要後、主催者として石上智康理事長が挨拶をしました。

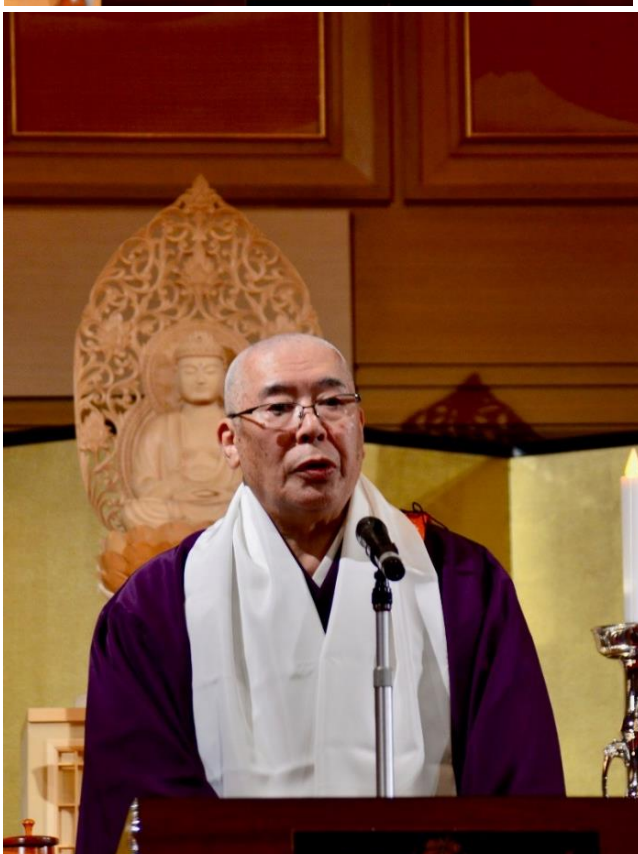


挨拶では、ご来賓をはじめ、関係各位へのご出席、並びに共催である福島県仏教会のご尽力に対して御礼を述べました。

また、福島県で財団創立 60 周年記念式典を開催した意味を「引き続き、被災地と被災者に寄り添い、その苦しみを自らの苦しみとして、とともに歩んで参りたい」と説明し、「仏教の本来化に向けて、愚直に行動することが仏教者に求められている」と述べました。

結びに、伝統仏教界への変わらぬご理解とご協力を呼びかけました。

続いて、WFB(世界仏教徒連盟)事務総長のパロップ・タイアリー様(左上)、公益財団法人日本宗教連盟理事長の芳村正徳様(右上)、郡山市長の品川萬里様(左下)からご祝辞をいただきました。



最後に、福島県議会議長の杉山純一様を紹介し、篠原法傳副会長が謝辞を述べました(右下)。

篠原副会長は、財団創立 40 周年の際は、阪神・淡路大震災被災地である兵庫県で開催されたことに触れながら、東日本大震災は「人間の生き方を問い直した」と述べました。また記念事業を「未来につなげる」ものと位置づけ「仏教者としての生き方を求め続ける」と締めくくりました。

式典後は、芥川賞作家で福島県福聚寺住職の玄侑宗久師の記念講演を行いました。



講題は「無常と『あはれ』」でした。冒頭には財団創立 60 周年記念式典及び全日本仏教徒会議を福島県で開催することに対する御礼と、福島県の寺院としてこの場に呼んでいただいたことへの御礼を述べました。また、「全日本仏教会に感謝していること」として、コミュニティの中心である神社仏閣も支援が受けられるように、政府へ陳情したこともお話しされました。

自身が復興構想会議の委員になった際、被災が甚だしくも、避難所として機能している神社仏閣に復興義援金がおりにように再三お願いしたものの、「政教分離」という言葉が先行し、受け入れられなかったとのことです。しかし、本会の政府等へのアプローチにより、復興庁に対し神社仏閣が被害を申し出て、費用を求めることができるようになったと紹介されました。

玄侑師は、地震や津波、その他様々な災害が日本には昔から頻繁にあり、それが日本人の気持ちや文化を作り上げてきた面が「非常に大きい」と気づかれたそうです。そのうえで、「無常であろうという気分と、『あはれ』、無常とばかりいってられないという反対の気分が両方尊重されたのが日本」ではないかとお話しされました。

そして、「矛盾」ではなく、「両方」という考え方で、「忘れようという気持ちと忘れられないという、この両方を保たなければならなかった」という、災害に限らず、様々な経験をされる方の心情を表現されました。

年忌法要や仏壇というものが、「亡くなった家族に気持ちを捧げて、立ち上がったなら忘れて会社に行く」という例えをあげながら、グリーフケアという面でも年忌法要や仏壇が重要であることを述べました。

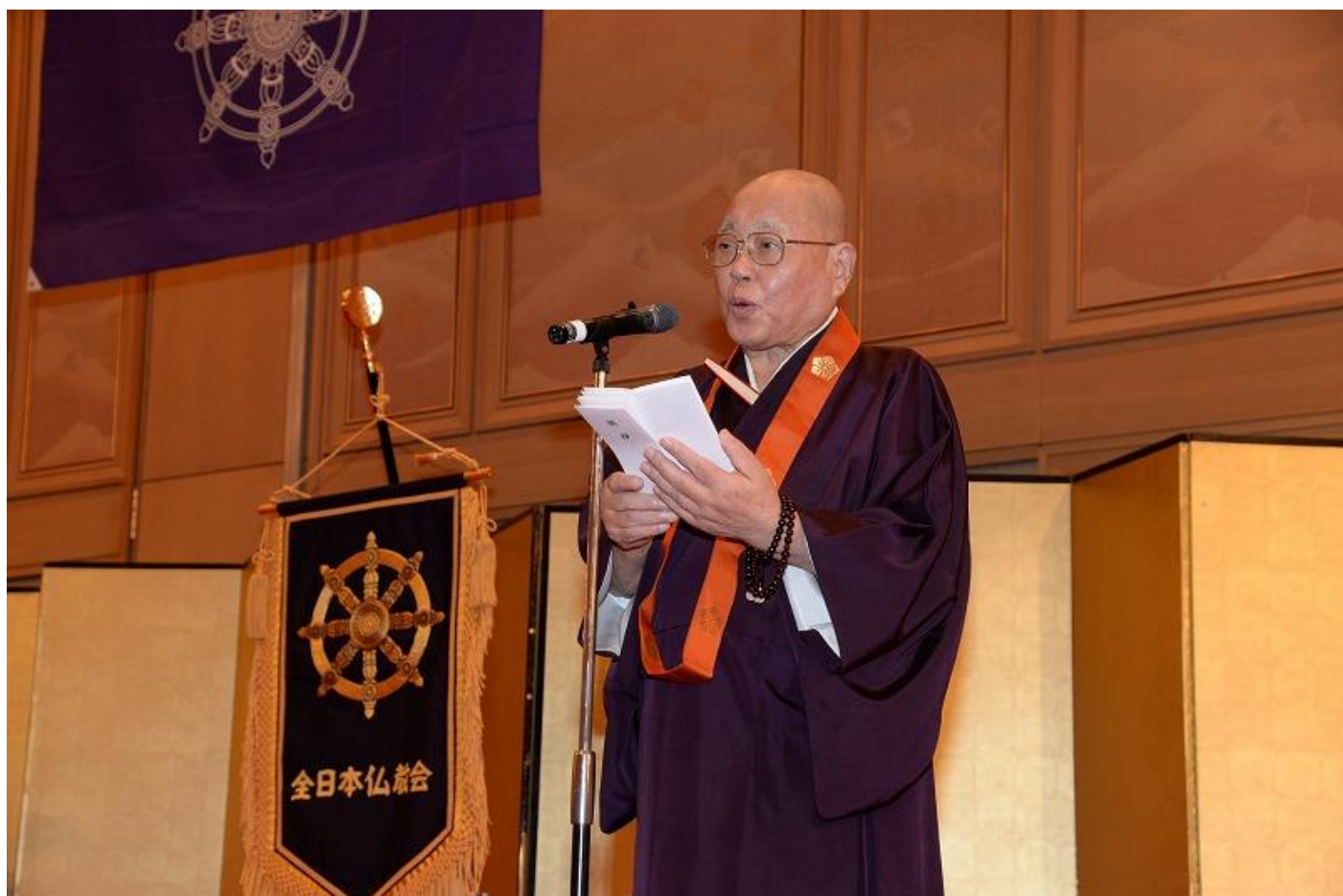
最後に、「この震災は両極端を踏まえながら(中略)心の生産性の非常に高い文化を作り上げたのではないかと自身の思いを紹介し、「それが日本文化の重層性、強さではないか」と締めくくりました。

大変ご多忙の中、お引き受けくださいましたこと、心より御礼申し上げます。

記念講演後、懇親会を催し、工藤裕雅副会長の辞により開会いたしました。



主催者として小峰会長が挨拶をし、会長として法要を厳修したことを「感慨深い」と述べ、本会財団創立 40 周年の際に、兵庫県で厳修した法要も真言宗智山派が本会会長であったことを思い起こしながら、改めて早期復興を祈念しました。



続いて、ご来賓として、自由民主党仏教議員連盟から片山さつき参議院議員（左）、民進党仏教議員連盟から大島九州男参議院議員（右）にご挨拶いただきました。



その後、ご来賓、加盟団体管長や代表者、宗務総長他に登壇いただきました。



乾杯の発声は多川俊映副会長が務めました。

挨拶の中で、「年忌法要や祥月命日があるというのは、忘れないということです」と東日本大震災や様々な災害を風化させない決意を改めて述べました。

乾杯発声後、和やかに懇親会が催されました。

清興として、「一般財団法人 100 万人のクラシックライブ」と「ひょっとこ踊り」が披露され、出席者の皆様とともに、60 周年を祝いました。



クラシックライブでは津波で流された流木を使用した「津波ヴァイオリン」の音色が響きました(左)。

ひょっとこ踊りは 300 年前から伝わる、福島を代表する郷土芸能です。海外参加者も喜んでおられました(右)。



懇談中は様々な場所で石田宏壽福島大会実行委員長(写真中央)が挨拶をされていました(左)

賛助会員の皆様には多大なるご協力を賜り、誠に有難うございました(右)。



中締め挨拶として、久喜和裕事務総長が登壇しました。

出席の御礼とともに、関係各位のご尽力のおかげで本日を迎えられたこと、また日頃からのご理解とご協力に感謝を述べ、「仏教文化の宣揚」と「世界平和の進展に寄与」する本会の目的にむけて、事業を推進する責務を果たしていく旨を伝え、中締めとなりました。

第 44 回全日本仏教徒会議福島大会(14 日)

14 日はビッグパレットふくしまを会場に、福島県内檀信徒を中心とした福島大会が開催されました。

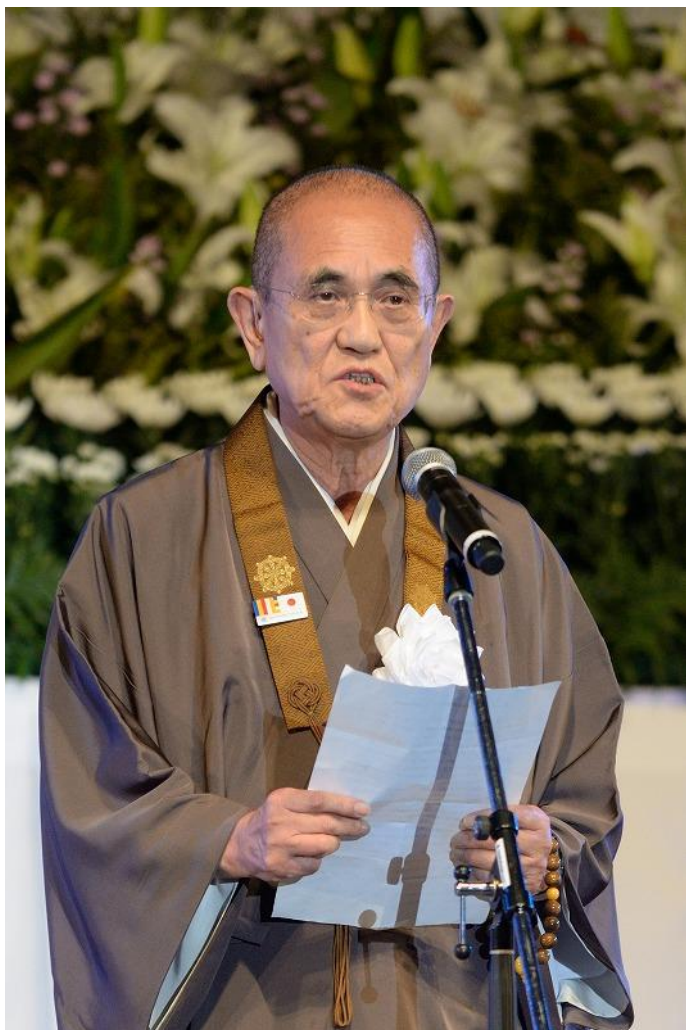


約 2,500 人の来場者の中、復興祈念法要を厳修しました。導師は小峰会長です。

真言宗豊山派僧侶による「豊山太鼓」の中、登壇者やご来場の方々とともに「般若心経」を読経しました。

その後、真言宗智山派の僧侶のお勤めにより、被災物故者の追悼及び被災地の復興が祈念されました。

法要後、主催者として、石上理事長(左上)と石田実行委員長(右上)が挨拶をしました。

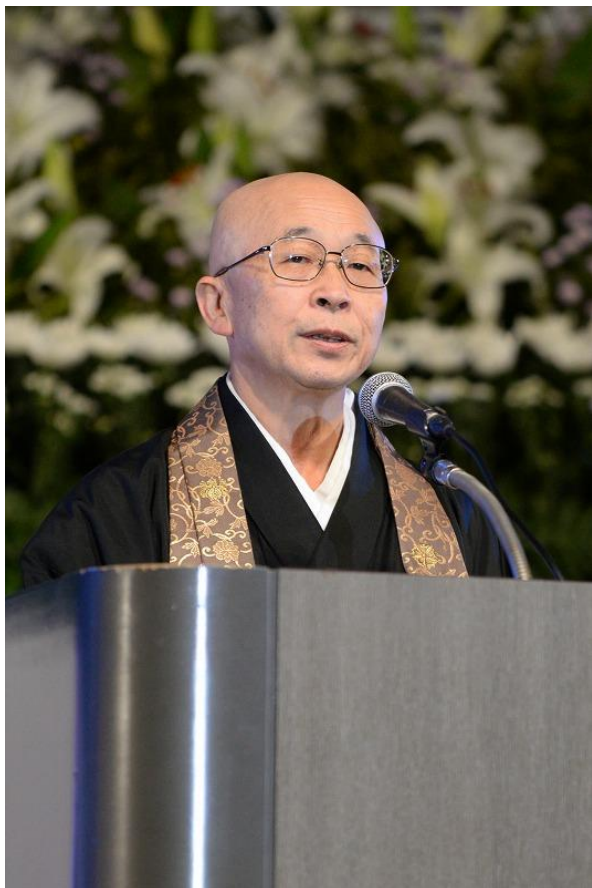


テーマ「ご縁をかたちに、絆を行動に一私からはじまる」を紹介し、福島県で記念式典と大会を開催する意義を述べました。



その後、加藤登紀子氏による「お話と歌」が催され、代表曲「百万本のバラ」などが披露され、素敵な歌声で会場を魅了しました。

引き続き、閉会行事が執り行われました。



福島県仏教会の玉木芳宗会長(左)からは、地元での大会開催への御礼が述べられました。

伊東寂俊大会起草委員長(右)から、下記の通り、大会宣言がありました。

大会宣言

本日ここに第 44 回全日本仏教徒会議福島大会を開催いたしました。本大会は公益財団法人全日本仏教会財団創立 60 周年記念事業として、未曾有の大惨事であった東日本大震災の被災地である当地福島に於いて、その 7 回忌、そして阪神・淡路大震災 23 回忌などの追悼供養、並びに復興祈念を併せて執り行いました。

震災後六年半余りを経過いたしました。復旧復興はまだまだ道半ば、特に本県においては原発事故による放射能汚染の脅威、風評被害も未だ収まらず、今後の事故処理にも数十年以上の長い年月が予想されております。

しかしながら、この大震災は、私たちが「ご縁をかたちに」することの大切さを再認識する時機となり、伝統仏教界が「絆を行動に」移す重要性を改めて領解する機縁となったのではないのでしょうか。

世界の現況を思う時、貧困や飢餓、格差や不平等、環境やエネルギーの問題、そして平和を脅かす武力や暴力など多難を極めております。我が国においても少子高齢化を始めとして課題が山積し、予測される未来は必ずしも明るいものとはばかりは申せません。

されど、さればこそ、生きとし生けるもの全ての幸福に資するために、私たち仏教徒が「仏陀の和の精神」を体現して行かねばならないと考えます。仏陀の説かれた覚りの真実と慈悲の教えを日常の中に活かし、全ての人、全てのものに報恩感謝し、「ご縁をかたちに、絆を行動に」する生活を私たちから始めることを誓い、大会宣言といたします。

平成 29 年 10 月 14 日

第 44 回全日本仏教徒会議福島大会

引き続き、次回開催地が紹介され、第45回全日本仏教徒会議は島根県で開催されることになりました。



石田実行委員長から久喜事務総長に大会旗が返還され(左)、島根県仏教会の清水谷善圭会長にお渡ししました(右)。



清水谷会長から、次回開催への意欲が語られ、「島根に行くぞ」と会場に呼びかけました。

皆様からのご尽力を頂戴し、記念式典及び福島大会を無事に開催することが叶いました。改めて厚く御礼を申し上げるとともに、今後とも本会活動にご理解とご協力を賜れば幸いです。

日本仏教を世界へ

来年 11 月には、WFB(世界仏教徒連盟)世界仏教徒会議日本大会を開催します。



財団創立 60 周年記念事業の一環として、国内外の仏教者とともに、被災地支援などの救援活動や地域における日常の社会活動を紹介し、日本の伝統仏教を世界へ発信いたします。また、曹洞宗大本山總持寺(横浜市鶴見区)で記念法要も厳修し、一般の方が仏教に親しんでいただけるイベントも開催します。

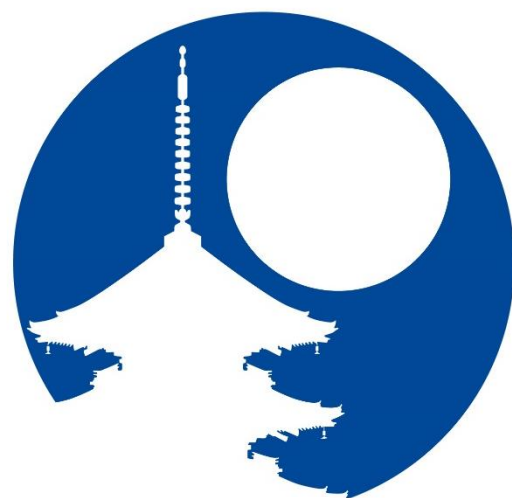
【開催概要】

○名 称:第 29 回WFB世界仏教徒会議・第 20 回WFBY世界仏教徒青年会議日本大会

○開催日:2018(平成 30)年 11 月 5 日(月)～9 日(金)

※11 月 9 日に總持寺にて記念法要・シンポジウム・日本仏教紹介イベントを実施。他日は関係者のみ。

○会 場:マロウドインターナショナルホテル成田/曹洞宗大本山總持寺



世界大会ロゴ

※WFB とは？

世界の仏教徒の交流や友好を目的に、1950(昭和 25)年に設立。本部はタイ・バンコク。世界約 200 の地域センターが加盟し、日本では伝統仏教界として本会のみが加盟。日本仏教の発信や世界の諸問題を日本仏教の立場から提言している。



世界大会公式HP



〒105-0011 東京都港区芝公園 4-7-4 明照会館 2F

TEL:03-3437-9275

Written by JBF32thDiv

Date Created:31/Oct./2017(H29)